

基本方針1 だれもが学び合える環境づくり ～一人ひとりの学びを支え、学び合いが広がる基盤づくり～

- 学びに参加しやすいきっかけづくりを進めるとともに、多様な生き方・世代・背景・状況に応じて学びに参加できる多様な機会を提供します。
- 時代に応じた学習環境の適正な整備や、生涯学習センターを中心とする包括的な学びの拠点づくりと連携強化を進め、誰もが学びやすい環境づくりを進めます。
- 学びに関する情報が広く届き、活用される仕組みを充実させるとともに、学びの相談体制を整備することで、学びとの出会いと主体的な学び合いを促進します。

具体的施策		(※検討用の視点)	施策の内容	担当課から	事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
1-1	学びのきっかけづくり	・興味を持ちながら参加できていない(消極的な)人へのリーチ ⇒魅力的なコンテンツ(講座)の充実 ⇒参加を阻害する要因の排除(講座・活動参加の心理的ハードルを下げる)	●市民が学びを通して豊かな人生を送れるよう、誰もが参加しやすい環境を整えとともに、参加しやすい仕組みづくり、参加のきっかけづくりに取り組みます。 ○学びへの意欲を持ちながら学習活動に参加できていない市民に対して、参加を阻害する様々な要因を取り除き、魅力的な学習環境や講座等の提供により参加を促していきます。 ○身近な場所で学べる機会を提供し、学びとの出会いを広げていきます。	検討	市民スポーツ教室	スポーツ推進委員並びに府中市体育協会が中心になり、スポーツ実施率の向上を目的に幅広い年齢の市民を対象としたスポーツ教室を実施する。	ジュニアからシニアにわたるまで、市民がそれぞれのライフステージに合わせて活動できるスポーツ教室を開催することでスポーツ機会の拡充を図る。
				継続	郷土の森博物館展示会事業	長期休暇、梅まつりなどの時期に展示会を実施し、日頃、見ることのできない展示物に触れることにより、学習の幅を広げる。	年2回の特別展をはじめとした企画展や、季節に応じた展示会事業等を実施し、地域の歴史や文化、自然への理解を深める学びの機会を提供する。
				検討	みんなのスポーツday	体育の日にちなみ、体育館を無料開放し、市民誰もがスポーツに親しめるイベントを実施する。	ラリーテニスやボッチャなどのほか、地域の特色をいかした取組を行う。
				事業名修正	地区公民館講座	市内11か所の文化センター内にある公民館で親子料理教室・工作教室等の家庭教育学級、料理・工作・健康教室等の趣味実用講座のほかに、親子人形劇や映画鑑賞会を実施する。	家庭教育支援の一環として親子のふれあいの場を提供していく。また、市民のニーズに合わせた講座を実施することで学びのきっかけづくり、健康の増進などにつなげる。地区公民館講座60回以上を目標として、地域住民の交流の場を提供する。
				事業名内容修正	ふちゅう教養講座(仮名称・旧公民館講座)	幅広い市民を対象に、子育て中の保護者向けの家庭教育に関する講座や親子参加型の講座など、今まで市で行ってきた講座以外にも、様々なニーズを捉えて、時代に即したテーマの教養講座を実施する。	毎年、時代に即したテーマの講座を開催する。
				廃止(統合)	全市の家庭教育学級	家庭教育を支援するため、保護者などに対する学習の機会を提供する。主に幼児を持つ保護者を対象に、託児を付けた講座を実施する。	託児室を設置し、子育て中の保護者が参加しやすい講座を目指し、毎年4回の実施を目標とする。
				内容修正	生涯学習センター講座	多様な学びの機会を提供し、市の生涯学習振興につながる、市民の学習ニーズに合った、様々な講座を実施する。	各分野の専門家のほか、生涯学習センターで活動している市民団体や生涯学習サポーターを講師として講座を開催し、市民協働を図る。
				例示	参加体験ワークショップ	生涯学習センターや文化センターにおいて、これまで縁遠かったような人が気軽に参加できる体験型のワークショップを開催する。	生涯学習フェスティバルなどのイベントの際に企画を行いつつ、毎週末など年間を通して参加できる機会を増やす。
1-2	一人ひとりの背景や時代に対応した学びの機会づくり	・多様な学習方法・環境の提供 ⇒地理的・時間的制約を超えたいつでも学べる生涯学習環境(生涯学習DX) ⇒障がいの有無や国籍、年齢、性別を超えた包括的な学習環境の整備 ⇒リスキリングに関するプログラム充実	●市民一人ひとりの学びへの意欲が、自分らしい未来につながるよう、主体的な学びを支える、時代に即した生涯学習を促進します。 ○デジタル技術の活用により地理的・時間的制約を解消し、誰もがいつでも学べる生涯学習環境を目指します(生涯学習DX)。 ○既存の講座・学級などにおいても、ハイブリット型の学習の機会を推進します。 ○キャリア向上やスキルアップを目指す市民のため、様々なニーズ・段階に応じた講座等の充実など市民のリスキリングを支援します。 ○障がいの有無や国籍、年齢、性別にかかわらず、より多くの市民が参加できるよう、多様な背景や状況に配慮した包括的な学習の機会づくりに努めます。	廃止	ふちゅうカレッジ100単位	対象となる学習講座を受講し、100単位を修得された方に生涯学習士の称号と修了証を授与する。	地域社会に学びを還すことを目的としているため、「学び返し」につながるように市民の知識や経験の機会の確保に努める。
				継続	ふちゅうカレッジ出前講座	市民のリクエストに応じて市職員が講師となり、市政の様々なテーマについて講義する。	市民の多様なリクエストに応じられるよう講座を開催し、市民の教養の向上に努めていく。実施件数40件、参加者1300人を目標とする。
				事業名内容修正	障害者成人教室(あすなろ学級)	18歳以上の知的障害者を対象に月2回程度開催し、障害者の学習、スポーツの機会を確保する。また、この事業に参加するボランティアの育成、活用を図る。	軽スポーツや工作等の活動を通して障害者の自立を促すとともに、社会に開かれた運営を目指す。また、ボランティアが企画する事業も取り入れ、市民協働で実施する。年15回以上の開催を目標とする。
				内容修正	一般健康教室	生活習慣病、健康増進、健康に関する正しい知識の普及を目的に、講話、相談、試食などを実施する。	生活習慣病、健康増進、健康に関する正しい知識の普及を推進し、個人の取組にとどまらず地域全体でソーシャルキャピタルの醸成による健康づくりを目指す。
				検討	けやき寿学園	60歳以上を対象に、政治、経済、文化、芸術など多様なジャンルから、市民のニーズを捉えたプログラムを実施する。	対象者のニーズに合わせて、気軽に参加できる無料の講座を開催する。
				新規	オンラインを活用した講座	生涯学習センター講座や公民館講座におけるオンラインで受講・参加できるメニューを開設する(ハイブリット型講座も含む。)	オンライン学習のニーズを捉えながら、講座内容の拡充と新たな受講者層の開拓を目指す。
				新規	心身に障害のある児童・生徒の地域活動事業	市内在住の市立小中学校特別支援教室・都立特別支援学校の在籍者を対象に、週休日に体験学習活動の機会を提供する。	障害のある青少年に多様な体験学習の機会を提供するとともに、活動を支える指導者やボランティアの育成を図る。

具体的施策		(※検討用の視点)	施策の内容	担当課から	事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
1-3	だれもが学びやすい環境づくり	・学びの場(施設)への不便の解消、気軽に利用できる学びの拠点の整備 ・生涯学習施設へのアクセスが悪い地域の住人、市民同士の交流の場・学びの場を求めているへのリーチ ⇒施設の交通利便性(アクセス性)の向上 ⇒中心市街地への移転 ⇒若者の居場所づくり(自習室、wifiの設置、大学との連携など) ⇒拠点機能の充実	●生涯学習センター、文化センター、図書館など生涯学習関連施設の整備充実を図り、持続可能な学びの拠点づくりに取り組みます。 ○生涯学習センターは、建て替えと併せて拠点機能の強化を図ります。また、活動の場の確保、利用者との意見交換など、移転・複合化に伴う学習活動への影響を最小限に抑えるための計画的な対応を行います。 ○多世代が利用できる学びを通した居場所づくりにより、若者の学習活動の支援充実や多世代交流を促進します。 ○市内どこからでも気軽に講座や活動の場にアクセスできるよう、創意工夫のもと学びの機会充実に努めます。また、DX環境の整備や、利用を促進するために交通利便性(アクセス性)の向上を図ります。	内容修正	放課後子ども教室	市内在住の全ての小学生に対し、放課後や学校の長期休業期間中に学校施設を活用し、安全で安心な居場所を提供する。	市立小学校22校で実施する。
				継続	児童館の充実	乳幼児を育児中の保護者が利用しやすいように、キッズスペースを設置し、一層の活用を図る。	児童館の利用活性化を図るため、比較的午前中の利用が多い未就学児の利便性を考えるとともに、多くの小学生参加が見込まれるサークルの活動については、子供たちのニーズに合った企画・実施を心掛けていく。
				廃止(統合)	生涯学習センターの託児室の開放	学習を目的に託児を必要とする団体(サークル)に託児室を無料で提供する。	託児を必要とする団体への周知・情報提供を図り、生涯学習センター内施設を利用する際に、託児を必要とする団体が託児室を併用利用する場合、託児室を無料で提供する。
				内容修正	国際交流サロン運営事業	外国人住民を対象に、日本語学習や文化交流活動の機会を提供する。	外国人住民の日本語学習等をサポートする市民ボランティアを育成する。
				継続	生涯学習センタースポーツ施設	体育室の一般開放では、誰でも利用しやすい場を提供する。その他水泳教室などを開催し、技術面でもサポートする。	卓球、バドミントンなどが気軽にできる場や多種多様なトレーニング器具を提供する。水泳技術と健康増進運動を図るため、障害者専用コース、ワンポイントレッスンなどを実施する。
				新規	生涯学習センター学習施設	市民・利用者に生涯学習センターの学習施設を良好な状態で提供する。	生涯学習センター学習施設の維持と改善を図りながら各施設で運営する。
				新規	生涯学習センター移転新設	生涯学習センターの学習機能の移転と新施設の建設を進める。乳幼児と保護者が遊びながら学ぶことのできるキッズスペースを設け、若者や高齢者も集うことのできる多世代の居場所づくり、地域間・世代間の交流を促進する機能を強化する。また、DXに対応した施設とする。	生涯学習センターの令和11年度の府中駅北第2庁舎への移転、令和14年度の中央文化センター等複合施設の新設及び移転を進める。
				例示	自習室運営事業	生涯学習センターや文化センターの会議室などを自習スペースとして開放する。	施設の利用予約がない場合に設けるほか、青少年などの自習の需要が多い時期には積極的に自習室としての施設利用を企画する。
1-4	学びの情報共有の仕組みづくり	・分かりやすく、探しやすい、必要な情報に的確に到達できる情報発信の仕組みの構築 ⇒学びに関する情報の体系的な整理と公開 ⇒デジタルに身近な人が情報に触れる機会の充実(ポータルサイト、SNS) ⇒デジタルに不慣れな人が情報に触れる機会の充実 ⇒学びに消極的、無関心な層や外国人など多様な市民に届く情報発信	●学びの情報をより多くの市民に確実に情報を届けるため、分かりやすく、探しやすい、必要な情報を的確に届ける情報発信の仕組みの構築を行います。 ○活動団体や講座の情報を体系的に検索が可能なポータルサイトの整備や、SNSなどデジタルでの情報発信機能の強化に努めます。 ○多様な層に情報が届くよう、広報ふちゅうへの生涯学習情報の掲載や、市内各施設でのチラシ・ポスター掲示等の紙媒体を活用した情報発信を継続的に実施します。 ○市民一人ひとりが求める学びに出会えるよう、コンシェルジュによる相談機能を整備し、講座や活動の情報案内や、伴走支援を実施します。 ○外国籍の方や府中市に転入直後の人、学びに関心の低い人など、多様な背景や状況を持った市民に届ける視点をもって情報発信に取り組みます。	内容修正	生涯学習情報誌の発行	生涯学習ボランティアの編集で、市民の学習活動状況や生涯学習センターでのイベントを取り上げ「生涯楽習だより」を発行する。	生涯学習ボランティア編集による「生涯楽習だより」について、指定管理との協働により発行する。年4回の発行を目指す。
				廃止	外国語版情報誌(府中インフォライン)の発行	在住外国人向けに催し案内や生活上の情報を盛り込んだ冊子(英・中・韓文併記)を発行する。	定期的な発行を継続し、在住外国人への効果的な情報発信を目指す。
				事業名 内容修正	インターネットによる情報発信	市のSNSなどで積極的に生涯学習情報の発信を行い、市民が必要な情報を入手できるようサービスの向上を図る。	市のSNSでの情報発信を充実させ、市の生涯学習に関する情報を取得している市民の割合の向上を目指す。
				継続	広報媒体を活用した生涯学習のPR	各主管課の依頼に基づいて生涯学習関連事業を広報ふちゅうなどを通じて、市民に知らせる。	各主管課の依頼に基づいて広報ふちゅうなどに生涯学習関連事業の内容を掲載する。
				事業名 内容修正	生涯学習相談	生涯学習に関する様々な情報の提供、相談、紹介、支援・調整に関する体制を整備する。	生涯学習コンサルジュを始め、社会教育士などの社会教育人材の活用を図った体制の整備を目指す。
				新規	生涯学習ポータルサイトの運営	生涯学習に関わる情報を一元的に管理して発信を行い、市民に対する情報提供と活動交流の促進を図る。	ポータルサイトの開設と内容の充実を目指す。

- 府中市の学びをつなぐ担い手の発掘・育成や活動支援を通じて、人と人が結びつく持続的なネットワークの形成を図ります。
- 一人ひとりが学んだ成果を適切にいかすための仕組みづくりとともに、学びの成果を広げる機会の充実を進め、学び返しによる地域の課題解決や市民による多様な学びの場の形成などを促進します。
- 地域・団体・学校や大学、企業などの多様な主体の連携を強化し、拠点を通じて市全体での学びのネットワークを広げていくことで、より良い地域づくりなど、新たな価値の創出につなげます。

具体的施策		(※検討用の視点)	施策の内容	担当課から	事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
2-1	学びを支え・つなげる人づくり	・学習を行う人:活動団体やボランティアの維持・継続のための仕組みづくり ・学習を支える人:市内の学習資源(人や組織)の発掘と橋渡し ⇒市民団体への活動支援 ⇒生涯学習コンシェルジュ	●学びを支える担い手の発掘・育成や活動支援を進めるとともに、人や活動をつなぐ仕組みの充実を図ります。「学ぶ人」と「学びを支える人」の双方を支えながら、持続的な担い手づくりに取り組みます。 ○現在活動している団体への支援に加え、高齢化・会員減少などの課題を抱える活動団体やボランティアが継続的に活動できるよう支援を進めます。 ○「生涯学習コンシェルジュ(前計画での生涯学習ファシリテーター・サポーター)」など、学びをつなぐ役割を担う人材の育成に努めます。 ○様々な分野でのボランティアの養成講座を実施するなど、学びを支える担い手の発掘・育成に努めます。	事業名 内容修正	生涯学習コンシェルジュの養成(旧ファシリテーターの養成)	市民の学習活動に対し、情報提供や相談に応じるなど、支援を行う生涯学習コンシェルジュを養成する。	生涯学習コンシェルジュの認定基準やカリキュラムを作成して養成講座を実施し、修了者を輩出する。
				事業名 内容修正	生涯学習サポーターの登録(旧サポーター養成講座)	文化・芸術・教育・レクリエーション活動等について専門的知識・技能を持つ市民を指導者として、あらかじめ登録し、市民の求めに応じ、その指導者を紹介する。	市民の間に広く制度の周知を進め、生涯学習の推進に役立つ優れた人材の確保に努める。
				内容修正	生涯学習ボランティアの養成講座	生涯学習を支える活動をしたいと考える市民のために、生涯学習ボランティア養成講座を開催する。	生涯学習ボランティア養成講座を開催し、ボランティアの養成に努める。年1回以上の開催を目標とする。
				継続	ジュニアリーダー講習会	小学4年生～高校3年生を対象に、リーダーシップ・協調性・主体性の養成、将来の青少年育成を担う人材育成を目的としたジュニアリーダー講習会を実施する。	他者や異年齢層との交流方法、自分で考え行動する力等を身に付けることを目的とした、集団活動、野外活動、社会学習等のプログラムを通年で実施する。
				検討	コムスポ協力者の育成	これまであまりスポーツになじみのなかった市民に、スポーツの楽しさを伝え、継続的な活動ができるように指導できる人材(府中コムスポの協力者※)を育成する。	コムスポ協力者の資質向上のため、研修会を年1回以上実施する。
				継続	おはなしボランティア養成講座	図書館や地域で絵本の読み聞かせを行うボランティアの資質向上を図るため、講座を実施する。	図書館のおはなしボランティアを対象にした「ステップアップ講座」を継続して実施し、ボランティアの人材育成と能力向上につなげる。また、市民対象の「読み聞かせ講習会」を毎年実施し、絵本の読み聞かせやストーリーテリングなどを地域で行える人材を育成する。
				継続	美術館ボランティアの育成	美術館ボランティアとの協働を推進する。NPOと美術館との協働により、研修会や教育普及事業など様々な事業活動の機会を提供し、美術館ボランティアを育成する。	アートスタジオ・ワークショップの補助、公開制作のガイド、市民文化の日などイベントのお手伝い、パブリックアート(彫刻)のメンテナンスなどを実施する。ボランティア活動のきっかけづくりとして、ボランティア説明会を併せて実施する。
				継続	市民活動団体の活動支援	市民活動センターに登録している団体の活動機会の提供に努めるとともに、地域との交流を図る。	市民・団体が交流できる場を提供し、市民同士のネットワークの構築を目指す。各種イベントなどで団体が活動する機会を提供し、団体活動の活性化を目指す。
				新規	社会教育(学習)関係団体への支援	教育委員会に登録した生涯学習に関わる活動を行う団体に、施設使用料の減額や広報ふちゅうへの記事の掲載などの支援を行う。	多様な学びのコミュニティの形成につながるよう、適宜、登録制度の見直しを図りながら、新規団体の登録を推進し、団体数の維持を目指す。
				例示	生涯学習団体1日公開講座	社会教育関係団体などの市民団体を公募し、1日体験講座を開催してもらい、学習活動の魅力を広げるとともに、活動団体の存在を知ってもらえる機会を設ける。	生涯学習センターなどで実施し、多様なジャンルから典型的な活動を行う団体に講座を実施してもらい、各分野・団体の活性化にもつなげる。

具体的施策		(※検討用の視点)	施策の内容	担当課から	事業名	事業内容	計画期間中の取組内容
2-2	学びの成果を広げる仕組みづくり	・「学びたい人」と「教えたい人（知識・技能や経験を地域・社会のためにいかしたい人）」のマッチング ⇒「学びの成果をいかしたい人」の発掘(相談支援、登録) ⇒「学びの成果をいかしたい人」と「学びたい人」のマッチング(実践の場の提供、活動の成果の発表)	●身に付けた知識・技能や経験(学びの成果)を地域・社会へいかしたい人と、新たに学びたい人がつながり、日常的な交流や実践を通じて「学び返し」が広がる、多様な学びの場づくりを進めます。 ○学びの成果をいかしたい人と学びたい人をつなげるため、相談支援や講師登録の活用などつなぐ仕組みを充実させ、市民企画講座など実践の機会を提供します。 ○生涯学習フェスティバルなど、学びの成果を広く発表・共有する機会を充実させ、新たな学びや活動、つながりへと発展するきっかけをつくります。	内容修正	市民企画講座	講座の企画を提案・実施する市民又は市民の団体を募集し、生涯学習センターで開催する。	知識・経験・企画意欲のある市民又は市民団体の企画を積極的に採用し、講座の充実を図るとともに、「学び返し」の実践の場として提供する。年間講座数6～7講座程度を目標とする。
				継続	生涯学習フェスティバル	市民の生涯学習に対する理解を深め、生涯学習活動全体の推進を図る。引き続き、自主的な活動を推進するため、市民による実行委員会形式で開催する。	市、実行委員及び指定管理者の三者による協働事業として実施。来場者数12,000人を目標とする。
				事業名 内容修正	民俗芸能伝承普及事業 (旧府中囃子伝承普及事業)	市の伝統芸能である府中囃子を永く後世に残すため、備品の貸与や援助などの支援をする。 市の郷土芸能である武蔵国府太鼓の普及と伝承のため、市民講習会を実施する。	府中囃子の伝承普及を府中囃子保存会への委託により継続して実施し、平成29年度に作成した府中囃子(2流派)のCDを活用するなど、市内外へ広く普及に努めていく。 武蔵国府太鼓講習会を武蔵国府太鼓連盟への委託により継続して実施し、平成30年度に作成した武蔵国府太鼓連盟のDVDを活用することにより、伝承と市内外への普及に努めていく。
				廃止 (統合)	武蔵国府太鼓伝承普及事業	市の郷土芸能である武蔵国府太鼓の普及と伝承のため、市民講習会を実施する。	武蔵国府太鼓講習会を武蔵国府太鼓連盟への委託により継続して実施し、平成30年度に作成した武蔵国府太鼓連盟のDVDを活用することで伝承と市内外へ広く普及に努めていく。
				新規	生涯学習コンシェルジュの活用	市民の学習活動に対し、情報提供や相談に応じるなど、支援を行う生涯学習コンシェルジュを養成し、その活用を進める。	生涯学習コンシェルジュ養成講座修了者の登録制度を整備し、生涯学習センター等で生涯学習相談等の活動ができるよう環境を確立する。
				新規	生涯学習サポーターの活用	生涯学習サポーターを市民の求めに応じて紹介するとともに、多様な学習活動の場面で活用を推進する。	生涯学習サポーター制度の市民への周知を図り、市民の利用を促進するとともに、生涯学習センター講座や公民館講座などの講師に活用する。
				継続	生涯学習ボランティアの活用	講座の企画・運営や講師として、生涯学習ボランティアを活用する。	指定管理者と生涯学習ボランティアの協働により、「学び返し」と市民協働を目指し、年間20講座程度の開催を目標とする。
				新規	府中市市民提案型男女共同参画推進講座事業	市民団体等の企画運営による講座を通じて、地域における男女共同参画の意識づくりと担い手育成を図る。	応募団体の中から選考を行い、選考を通過した2団体に事業を委託する。委託先団体が主体となり、地域における男女共同参画の意識づくりや女性人権の啓発等をテーマとした多様な講座を企画・実施する。
				新規	元気いっぱいサポート事業	地域ぐるみでの健康づくりの取組を行い、ソーシャルキャピタルの醸成を推進するため、元気いっぱいサポーター及び元気いっぱいサポーターリーダーが地域での健康づくりを推進する。	元気いっぱいサポーターに向けてサポーター通信を送付、市民向けの元気いっぱいサポーターリーダー養成講座及び元気いっぱいサポーターリーダー向けのリーダー会を実施、自主グループの活動を支援する。
2-3	府中市学びのネットワークづくり	・「学びのネットワークづくり」地域、団体、学校、大学、企業と行政の連携、生涯学習関連施設間の連携 ⇒大学との連携(公開講座) ⇒団体との連携(団体企画の市民講座、団体間の紹介) ⇒企業との連携(市内の企業による講座／企業向けの講座) ⇒地域との連携(学校支援ボランティア) ⇒施設間の連携(連絡会、利用登録の一元化など)	●地域、団体、学校、大学、企業との協働による学習・活動支援や、生涯学習に関連する施設間の連携を通じて、生涯学習を共通の視点とした市民の活躍を支える体制として「学びのネットワークづくり」を推進します。 ○市内企業や、市と協定を結んでいる大学・学校等との連携を強化し、公開講座や教養セミナーなど、専門的な学びを含む多様な学習機会の充実を図ります。 ○市の主催で、市内の活動団体の企画による講座を開催します。また、複数の団体による講座、イベント等の実施のため必要に応じて紹介等を行い、団体間の交流を促進します。 ○市内各地域の学校支援ボランティアとの連携により、世代を超えて学び合える身近な地域での学びの場づくりを進めます。 ○生涯学習センターを中心に、生涯学習関連施設間の連携を強化し、学びの情報や学びの機会を共有するとともに、人や活動をつなぐことで、市全体で学びを支えるネットワークづくりを進めます。	事業名 内容修正	市内生涯学習関係施設連絡会議	市内の生涯学習関連施設のイベント情報や市民ニーズの動向など学習活動に関する情報交換をする。	生涯学習関連の施設の担当者により、学習事業の情報交換などに加えて、全市的に取り組むべき企画について協議する。
				内容修正	大学との連携	東京農工大学及び東京外国語大学と連携し、教養セミナーなどを実施して、学習機会の場を提供する。	各大学との連携講座として実施する。各大学と年1回以上の連携講座の実施を目標とする。
				継続	学校支援ボランティア	地域社会が学校に対して支援していくボランティア活動を行う。	世代を超えたふれあい活動の実施、地域の伝統的な文化や技能の伝承、校庭の整備・花壇の世話などを実施する。
				例示	ふちゅうカレッジ企業出前講座	企業等が提供する非営利の学習プログラムや講師派遣の事業を市が紹介し、市民の学習活動に役立て、地域の生涯学習の力を引き出す。	市内に営業所や工場などを有する企業に働き掛け、企業によるメニューを出前講座に追加し、その講座数の増加と内容の充実を目指す。

「担当課から」凡例

継続	第3次計画に掲載されている事業で、第4次計画にも継続して掲載を希望するもの。
事業名 (内容)修正	第3次計画に掲載されている事業で、第4次計画にも継続して掲載を希望するが、事業名を修正(または内容を修正)するもの。
検討	第3次計画に掲載されている事業で、第4次計画への掲載には検討が必要なもの。
廃止	第3次計画に掲載されている事業で、現在事業を廃止した(又は廃止を予定している)もの。
廃止 (統合)	第3次計画に掲載されている事業で、他の事業との統合を希望するもの。
新規	第3次計画に掲載されていない事業で、現在行っているが掲載していないため掲載を希望するもの、又は新たに事業を始めたいもの。
例示	第3次計画に掲載されていない事業で、新たな事業のアイデアを出していただく参考例として記載したもの。